

[13] 延岡市小体連

(学校数27校 児童数 6407名)

I 年間事業

	事業名	事業内容	会場
5月8日(金)	第1回理事会	○ 会計予算審議 ○ 活動計画及び事業計画審議 ○ 小体連広報誌について	延岡小
6月5日(金)	第2回理事会	○ 器械運動教室及び研究内容確認 ○ 体力を高める取組について	旭小
7月23日(水)	器械教室運動前日準備	○ 器械運動教室会場設営 ○ 指導方法確認	東小
7月24日(金)	平成27年度延岡市器械運動教室		東小
7月28日(火)	平成27年度小学校体育指導者地区別講習会【東臼杵地区】		五十鈴小
8月20日(木)	第3回理事会	○ 陸上教室について ○ 器械運動教室反省 ○ 単元計画作成について	旭小
10月13日(火)	陸上教室前日準備	○ 会場設営 ○ 役員打合せ	
10月14日(水) 15日(木)	平成27年度延岡市陸上教室	○ 100m、50mH、走り幅跳び、走り高跳び、ソフトボール投げ、800・1000m走、4×100mリレー ○ アトラクション、ばんば踊り、商業高校生徒による集団行動	西階陸上競技場
11月30日(月)	第4回理事会	○ 陸上教室反省 ○ 授業研究会指導案検討	旭小
1月13日(水)	第5回理事会	○ 研究授業 ○ 事後研究会	一ヶ岡小
2月26日(金)	第6回理事会	○ 研究のまとめ ○ 事業反省	旭小

II 事業部のあゆみ

1 器械運動教室

- (1) 大会名 平成27年度延岡市器械運動教室
- (2) 期日 平成27年7月24日(金)
- (3) 会場 延岡市立東小学校
- (4) 参加者 延岡市立の小学校に通う3・4年生の希望児童 176名
- (5) 内容 延岡商業高校生徒及びさくら体操クラブによる模範演技
鉄棒(逆上がり) 跳び箱(開脚跳び)
- (6) 実施方法 ○ 児童をA、B2つのグループに分ける。
(Aグループ:鉄棒→跳び箱 Bグループ:跳び箱→鉄棒)
○ 各グループを10班に分け、少人数での実技指導を行う
- (7) 日程 ○ 開講式 9:00
○ 模範演技 9:15
○ 実技指導 9:55
○ 閉講式終了 12:25

- (8) 表彰 参加児童全員に、修了証を配付する
- (9) 反省 (成果と課題)
 - 綿密に指導法等の打ち合わせを行ったことで、共通した指導のもと逆上がりは20%、開脚跳びは77%の参加者が新たに技を習得できた。
 - 85%の児童が楽しかったと回答していた。その理由として技ができるようになったことが最も多く、他にも新しい友達ができたとやみんなの前で発表できたこと、先生方から褒められたことなどが挙げられていた。
 - 児童が技を習得できるようにするために場の設定や段階的な練習の在り方についてさらに工夫していく必要がある。

2 陸上教室

- (1) 大会名 平成27年度延岡市小学校陸上教室「オリンピックゲームズ」
- (2) 期日 平成27年10月14、15日
- (3) 会場 西階陸上競技場
- (4) 参加者 延岡市立の小学校に通う6年生児童(一部5年生児童を含む)
- (5) 種目
 - 100m走 ○ 50mハードル走
 - 800m走(女子) ○ 1000m走(男子)
 - 走り幅跳び ○ 走り高跳び
 - ソフトボール投げ ○ 4×100mリレー
- (6) 実施方法
 - 宮崎県小学校体育連盟標準記録認定要領及び、陸上競技ルールブック2015に則って行い、一部ローカルルールを採用する
 - 2日間で大会を開催し、延岡市小体連で市全体の結果を集約する。
- (7) 表彰 各種目の上位10名を表彰する(リレーのみ上位5チーム)
- (8) 反省(成果と課題)
 - 2日間開催にしたことで児童がたくさん活動したり競技したりすることができ充実感を感じることができた。
 - 久しぶりの一斉開催となったが立派な競技場で活動できたことや多くの学校の児童と競い合えたことがよい刺激となった。
 - 競技役員などの人員の確保が難しかった。
 - 暑さ対策を考えていかないといけない。

3 体力向上の取組

- (1) 期日 平成27年5月～
- (2) 対象 延岡市内の小学校に通う児童
- (3) 内容 なわとび運動
- (4) 取組内容
 - 延岡市小体連なわとびカードの活用
 - 延岡市なわとび大会の実施
 - ・ 8の字跳び部門及び2重跳び部門
- (5) 成果と今後の見通し
 - 「延岡市なわとび大会」を行い、校内及び学校間で競い合いながら体力を高めている。前期と後期でそれぞれ記録の集約を行い、表彰を行った。延岡市全体でなわとび運動に取り組んで3年目となるが、活動が活発になってきている。また、年々記録が向上し、体力の向上につながっていると言える。今後さらに活動が活発になるように取組を継続して行っていきたい。

III 研究部のあゆみ

1 研究主題

健やかな心と体を育み、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習を目指して
～「体づくり運動」指導の工夫を通して～

2 研究主題設定の理由

グローバル化の進展などにより、社会がめまぐるしく変化する中において、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことがますます重要になっている。

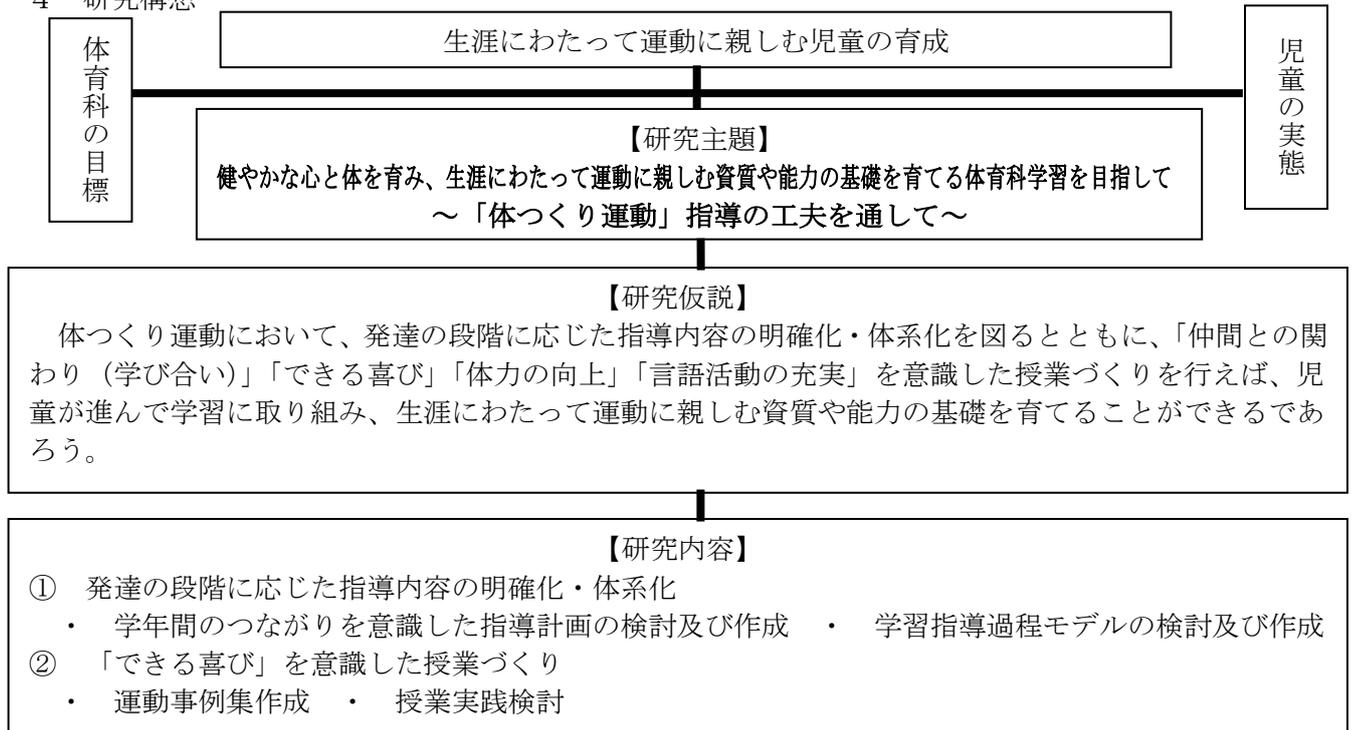
学習指導要領改訂により、体育については、「体を動かすことが、身体能力を身に付けるとともに、情緒面や知的な発達を促し、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成すること」「筋道を立てて練習や作戦を考え、改善の方法などを互いに話し合う活動などを通じて論理的思考力をはぐくむこと」「それぞれの運動が有する特性や魅力に応じて、基礎的な身体能力や知識を身に付け、生涯にわたって運動に親しむことができるように、発達の段階のまとまりを考慮し、指導内容を整理し体系化を図ること」と示されている。また、児童の体力・運動能力については、やや上昇傾向にあるものの、運動する児童とそうでない児童の二極化は依然深刻な問題となっている。そこで、すべての運動領域で適切な運動の経験を通して、一層の体力の向上を図ることができるよう指導の在り方を改善することとなっている。特に「体づくり運動」は、基本的な動きを培うことをねらいとして低学年から行い、第1学年から第6学年のすべての学年において指導することと示されている。

「体づくり運動」は、延岡市各小学校のアンケート結果より、興味・関心や苦手意識が高かった領域である。「運動例をあまり知らない」「単元構成の在り方が分からない」「1単位時間の授業の流し方が分からない」など課題が挙がっている。そこで、小体連では、低・中・高の発達段階や内容の違いを意識した指導の在り方を研究している。また、「仲間との関わり（学び合い）」「できる喜び」「体力の向上」「言語活動の充実」の4点を意識した授業づくりを行ってきている。これらの研究をより深めていくことで、授業改善及び充実を図り、延岡市の児童の健やかな心と体を育み、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てる体育科学習を目指していきたい。

3 研究仮説

体づくり運動において、発達の段階に応じた指導内容の明確化・体系化を図るとともに、「できる喜び」を意識した授業づくりを行えば、児童が進んで学習に取り組み、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てることができるであろう。

4 研究構想



5 研究計画

月	研究内容	備考
5月8日	昨年度までの研究経過の説明 本年度研究主題及び計画・内容についての提案	理事会①
5月	研究主題及び副題、研究内容の検討	研究部役員・理事長
6月5日	研究主題及び副題の検討 授業者の決定 研究内容及び計画の確認	理事会②
6～7月	研究の進め方の検討（具体的な形式の検討）	研究部役員・理事長
8月20日	指導計画作成の提案及び作成 学習指導過程モデルの提案	理事会③
9月	研究授業指導案検討① 指導計画作成	研究部役員・授業者・理事長 研究部
10月	指導案作成及び検討②（日程は後日お知らせ） 運動事例集 指導計画及び学習指導過程モデル検討及び作成完了・起案・印刷	研究部・授業者・有志 研究部役員が取りまとめ
11月30日	研究授業指導案検討 授業研究会役割分担提案	理事会④
12月	授業研究会準備	役割分担に沿って準備
1月13日	授業研究会（市教研教科研究大会）	理事会⑤
1月	研究収録作成（県小体連へ提出）	研究部役員
2月	年間の反省 次年度の方向性について	理事会⑥

6 研究の実際

(1) 体づくり運動指導計画作成・検討

「体づくり運動」領域の指導内容の明確化を図り、単元構成を意識した授業づくりを行えるようにすることを目的に指導計画を作成した。教師自身が何を教え、何を身に付けさせたいのか等を明確にすることで、見通しをもって指導を行えるようにしたいと考えた。

(2) 授業研究会「できる喜び」を意識した授業づくり

平成28年1月13日（水）に授業実践を行い、研究仮説の検証を行った。

単元（領域）	学年	授業者
体づくり運動（多様な動きをつくる運動）	4年	一ヶ岡小学校 教諭 津田 淳志

7 研究の成果と課題

(1) 成果

- 指導計画を作成し、体づくり運動の指導内容を明確化することで、教師や児童が見通しをもち、効率的に学習に取り組むことができた。
- 「できる喜び」を意識した授業づくりを行うことで、安定して上手に運動するためのコツを考え、自分の動きに生かそうとする姿が見られた。できることを一つずつ積み重ねることで体育の学習が好きになり、進んで学習に取り組む姿が見られた。
- 児童がお互いに具体的なアドバイスや上手にできるコツを教え合う姿が多く見られた。コツを意識して学習に取り組ませた成果であったと言える。

(2) 課題

- 延岡市小体連で作成している指導計画を学年間のつながりを意識しながらまとめ、各学校へ広げていく手立てが必要である。指導計画と併せて運動例を資料としてまとめ、添えていくことも求められるであろう。
- 研究の方向性については、本年度テーマを絞らずに幅広い視点から研究を行った。次年度は、テーマを絞り、より深く研究を進めていく必要がある。